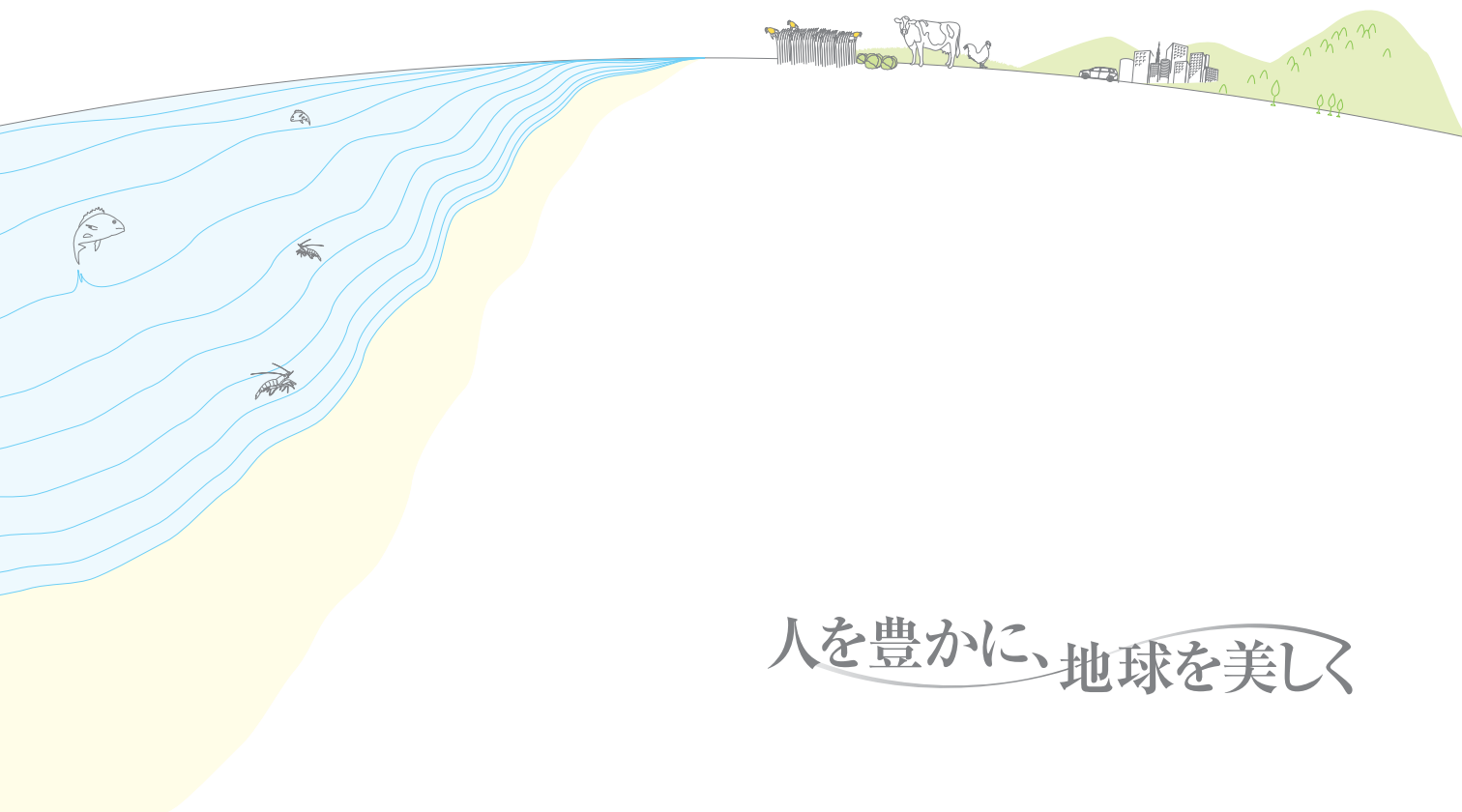


IR HAND BOOK

第61期 事業のご報告 (2009.4.1...2010.3.31)



人を豊かに、地球を美しく

ひと目で分かる 松田産業

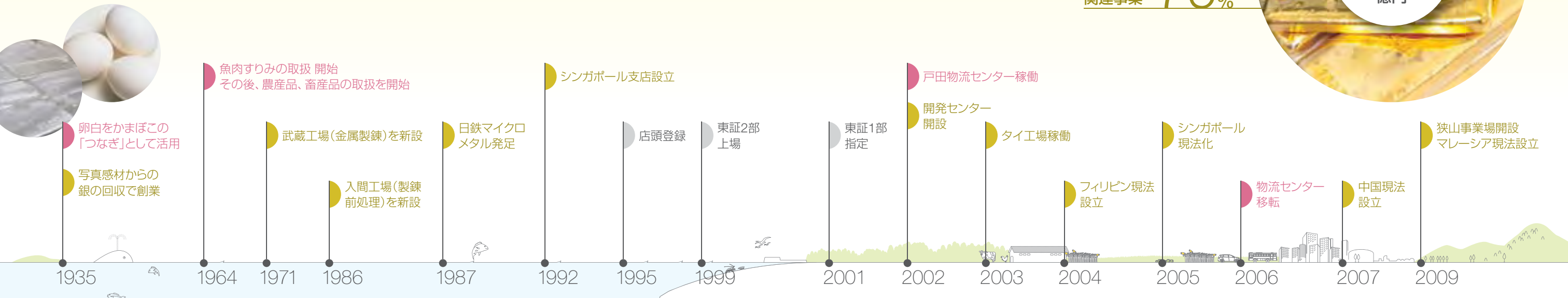
「地球資源を有効活用し、業を通じて社会に貢献すること」を企業理念に、

- 限りある資源・貴金属をリサイクルして有効活用を図る貴金属事業
- きれいな環境を次世代に引き継ぐ環境事業
- 地球の豊かな恵み、食資源を安定的に供給する食品事業

の3事業を中心に展開しています。

食品
関連事業 24%

貴金属
関連事業 76%



当社グループは、貴金属関連事業を拡大・成長の牽引役部門、
食品関連事業を安定的成長部門と位置付けた
中長期経営戦略を展開しています。

当誌に記載された業績見通し等の将来に関する記述は、決算短信が発表された2010年5月14日現在に当社が入手していた情報、および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、さまざまな要因により大きく異なる可能性があります。

貴金属関連事業

貴金属事業

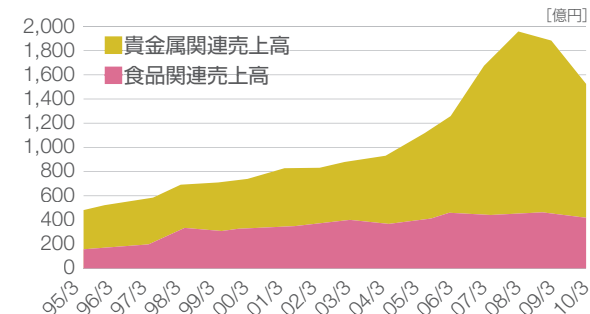
- 貴金属地金製造
- 貴金属化成品製造
- 貴金属リサイクル
- 治具精密洗浄
- 半導体・電子部材販売

環境事業

- 感材銀リサイクル
- 産廃収集／運搬
- 無害化中間処理
- VTR (真空加熱分離装置)

食品関連事業

- 水産品
- 畜産品
- 農産品
- 品質保証
- 物流



次なる成長ステージへ向けて 全社一丸で邁進してまいります。

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。ここに、当社の2010年3月期(2009年4月1日~2010年3月31日)のIR HAND BOOKをお届けいたします。本誌を通じて、当社に対するご理解を深めていただければ幸いに存じます。

2010年3月期業績・配当につきまして

2008年10月以降のエレクトロニクス業界の需要低迷や消費不況が当社グループの収益に大きな影響を与えた結果、2010年3月期の連結業績は、売上高156,424百万円(前年同期比14.3%減)、営業利益4,762百万円(同38.6%減)となりました。経常利益は4,961百万円(同28.4%減)、当期純利益は2,921百万円(同24.1%減)となりました。このように厳しい業績ではありましたが、株主の皆様からのご期待に応えるべく、期末配当金は前期末と同じ1株当たり12円とし、第2四半期末配当金12円と合わせた年間配当金は、前期と同じ24円を維持することいたしました。

中長期的目標へ向けて邁進します

当社グループは今後も、従前から掲げていた「連結売上高2,000億円、経常利益100億円」を中長期的な目標として達成を目指してまいります。そのために経営の効率化とコスト削減に引き続き取り組むとともに、貴金属関連事業では日本、タイ、フィリピン、シンガポール、マレーシア、中国、台湾等の拠点で貴金属リサイクル、電子部材・貴金属化成品の販売等の積極的拡大を図り、今後も成長が見込まれる東アジア地域でNo.1のリファイナーを目指してまいります。また食品関連事業でも、世界各地から安全・安心な食材を調達し、個々のお客様の要求にジャストフィットする形で提供する能力をさらに高めてまいります。

中長期
戦略

東アジアNo.1の
リファイナーを目指します

●入間 / 武蔵工場
●海外現地法人

2011年3月期はV字回復の年

外部環境は徐々に回復・好転の兆しを見せており、顧客である半導体・電子部品業界では大幅な減産から増産に転じています。また電子部材・貴金属化成品などの販売量や貴金属原材料の回収量も回復しているほか、環境部門でも、回復傾向が見られています。さらに食品関連部門でも、安定成長に向けた基盤づくりが進んでまいりました。こうしたことを追い風に、当社グループは、2011年3月期を業績回復の年と位置づけ、V字回復へ向けて全社一丸となって取り組んでまいります。

代表取締役社長 松田 芳明



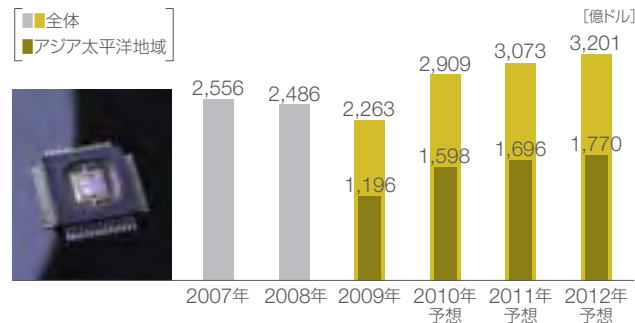
貴金属関連事業

ビジネスモデル [貴金属関連事業の仕組み]

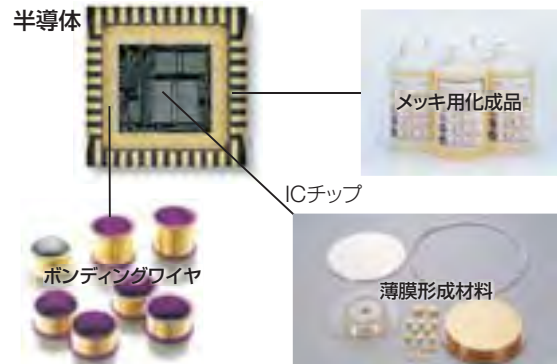


市場、業界環境

世界の半導体市場動向



当社貴金属関連事業の主要対象業界である半導体市場の規模は、2010年には大幅に回復し過去最大となることが予想されるほか、2012年には3,200億ドルを超えると見込まれています。なかでもアジア太平洋地域では、2009年からの3年間で、約570億ドルの市場成長が見込まれています(出所:「WSTS 2010年春季半導体市場予測について」)。



松田産業は、半導体上でICチップとリードフレームを結ぶボンディングワイヤや、ICチップに用いられる薄膜形成材料、リードフレームに必要なメッキ用化成品を販売しています。

松田産業の強み

- 創業以来70余年間蓄積された高度な技術、ノウハウで、前処理から製錬、分析まで対応。金、銀、白金族を中心に確実に回収する技術力の高さと取扱高は常に業界トップクラス
- メッキ用化成品などエレクトロニクス業界向け製品を多彩に開発・製造・販売するほか、産業廃棄物処理も引き受ける、トータルリサイクルサービスを提供
- 全国を網羅する産業廃棄物収集・運搬許可を取得

戦略課題と重点施策

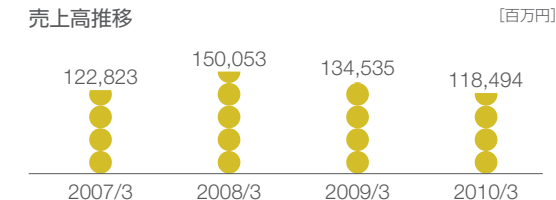
戦略課題	重点施策
海外拠点の強化	タイ・フィリピン・シンガポール・マレーシア・中国(蘇州)の強化 台湾: 資本・技術連携強化
国内拠点の整備	狭山事業場の開設 国内工場・拠点の整備
研究開発の強化	回収技術力の強化 精密洗浄能力の向上 メッキ液等の新商品開発

業績概況 (2010年3月期)

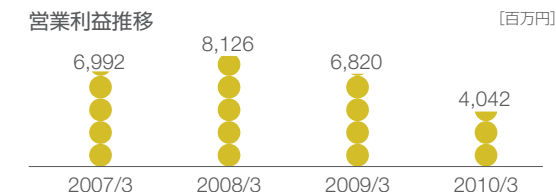
売上高 118,494百万円 前期比 11.9% 減

営業利益 4,042百万円 前期比 40.7% 減

- 貴金属部門**
- 半導体・電子部品業界が2008年の世界的な金融危機を契機とした大幅な減産から増産に転じたため、貴金属化成品や電子材料等商品の販売量、および貴金属原料の回収量が回復基調へ
 - 下期以降は、貴金属相場が前年の落ち込みから回復し売上増加
 - 前年における対象業界の生産活動低下の影響が上期の業績を大きく圧迫し、通期の売上高は減少



- 環境部門**
- 回復傾向は見られたものの力強さは乏しく、全体として製造業顧客の減産に伴う排出量の減少により、取扱量は前年に比べ減少



食品関連事業



市場、業界環境

- 食の安全・安心への関心の高まり
- 農薬および食品添加物への法的規制の強化
- 新興国の経済成長に伴う食資源調達競争の激化
- 外食産業の不振、中食・内食志向の高まり

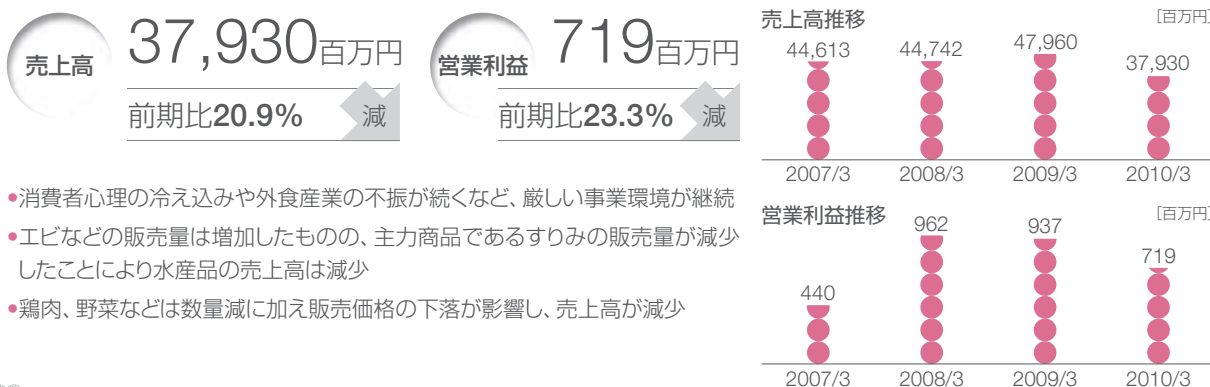
松田産業の強み

- 食品専門商社として、世界各国の仕入ネットワークを通じユーザーの求める商品を調達
- ユーザーが最も使いやすい形態・ロットでフレキシブルに一次加工
- 品質保証室による産地指導、品質規格書の発行やトレーサビリティでサービスを差別化
- 千葉物流センターで外食産業向けに個別店舗配送を展開

戦略課題と重点施策

- 安心・安全な商品の安定供給のための更なる品質管理の徹底、トレーサビリティの強化
- 仕入先との関係強化、新規商材・新産地の開拓による業務用食品原料の販売拡大
- 千葉物流センターの活用等による外食・中食・内食業界への販売強化

業績概況(2010年3月期)



- 消費者心理の冷え込みや外食産業の不振が続くなど、厳しい事業環境が継続
- エビなどの販売量は増加したものの、主力商品であるすりみの販売量が減少したことにより水産品の売上高は減少
- 鶏肉、野菜などは数量減に加え販売価格の下落が影響し、売上高が減少

連結財務諸表のポイント

業績・配当の推移

[百万円]

損益計算書(要約)	当期 2009.4~2010.3	前期 2008.4~2009.3	増減	増減率
売上高	156,424	182,496	-26,071	14.3% ▼
営業利益	4,762	7,757	-2,995	38.6% ▼
経常利益	4,961	6,933	-1,972	28.4% ▼
当期純利益	2,921	3,847	-926	24.1% ▼

貸借対照表(要約)	当期 2010.3.31	前期 2009.3.31	増減	キャッシュ・フロー計算書(要約)	当期 2009.4~2010.3	前期 2008.4~2009.3
流動資産	42,509	35,169	+7,340	営業活動によるキャッシュ・フロー	△711	14,392
固定資産	13,924	13,270	+654	投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,450	△1,729
流動負債	19,016	13,239	+5,777	財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,675	△7,086
固定負債	1,842	2,111	-269	現金及び現金同等物の期末残高	4,103	7,888
純資産	35,574	33,088	+2,485			
総資産	56,433	48,439	+7,993			

連結財務諸表のポイント

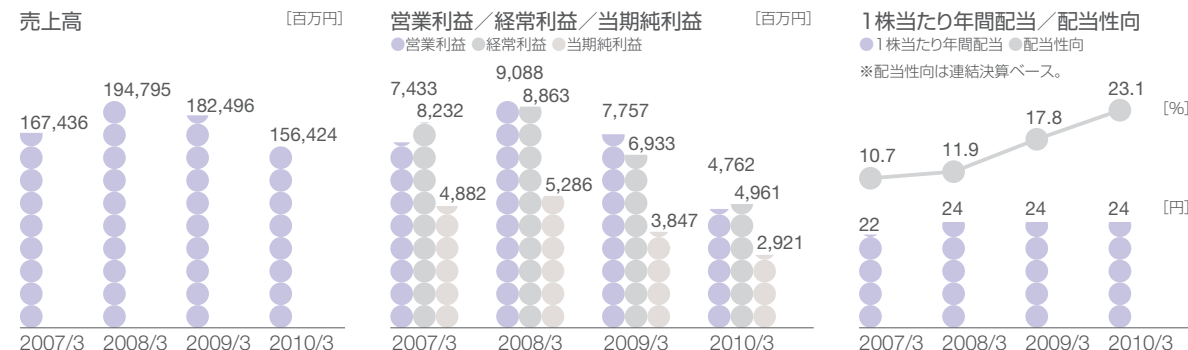
詳細な財務諸表等をご覧になりたい方は、当社ホームページ「投資情報」の決算短信をご参照ください。

松田産業

検索

▶ トップ画面 ▶ 投資情報

業績・配当の推移



もっと 知りたい! 松田産業

株主・投資家の皆様から
よくいただくご質問に
お答えします。

Q1

松田産業の貴金属事業の注力エリアは、
なぜ東アジアなのですか？

貴金属事業のお客様であるエレクトロニクスメーカーの多くが、東アジアに製造拠点を持たれているからです。

当社の東アジアへの拠点展開は、1992年のシンガポール支店の開設に始まります。当時から日本のエレクトロニクス産業は、円高への対抗策として東南アジア地域への拠点づくりを進め、今日では、この地域に半導体や電子部品を製造する企業が多数存在するようになりました。当社もこの動きに対応するため、タイに製錬処理が可能な工場を建設するとともに、

フィリピン・シンガポール・中国蘇州に現地法人を構え、日系企業に限らず、現地で活動する様々な企業を対象に、電子部材・貴金属化成品の販売や貴金属含有スクラップの回収などの事業を行っています。

こうした流れのなかで、昨年は新たにマレーシアに現地法人を立上げ、拠点網の更なる強化を計画しております。当社は今後も、お客様ニーズに合わせた事業展開と、拠点の強化を行ってまいります。



タイ工場

タイ工場

Q2

食品事業で取扱が一番多い品目は何ですか？

当社の食品事業で現在取扱が最も大きな品目は、かまぼこや練り製品の原料となる魚のすりみです。売上規模は、食品事業全体のおよそ1/4を占めています。そもそも当社の食品事業は、卵白をかまぼこのつなぎ材として販売する事業から始まりました。その後、鶏卵や魚のすりみの卸売へと展開し、さらにエビ、イカ、アサリなどの水産品や、鶏肉などの畜産品、冷凍野菜、生野菜などの農産品にも領域を拡大してまいりました。現在では大手食品加工メーカーや外食産業のお客様に、様々な食材の卸売販売を行っております。



タラ、ホキ、いとより、ぐち、はもなどから作られるすりみは、当社水産品の代表的商品で、ちくわ、かまぼこ等に使用されています。

Information

グループ会社概要

平成22年3月31日現在

	会社名	事業内容
貴金属関連	マツダ環境(株)	貨物自動車運送
	北海道アオキ化学(株)	産業廃棄物の収集・運搬および処理、金属原料の回収・販売
	日本メディカルテクノロジー(株)	金属原料の回収・販売
	ゼロ・ジャパン(株)	真空加熱分離装置(VTR)の設計・製造・販売および保守
	Matsuda Sangyo (Thailand) Co., Ltd.	金属原料の回収・販売、貴金属製商品の販売
	Matsuda Sangyo (Philippines) Corporation	金属原料の回収・販売、貴金属製商品の販売
	Matsuda Sangyo (Singapore) Pte. Ltd.	金属原料の回収・販売、貴金属製商品の販売
	松田資源利用(蘇州)有限公司	金属原料の回収・販売、貴金属製商品の販売
食品関連	Matsuda Sangyo (Malaysia) Sdn. Bhd.	金属原料の回収・販売、貴金属製商品の販売
	(株)日鉄マイクロメタル	電子工業用金属製品の製造・販売
	マツダ流通(株)	貨物自動車運送および食品加工原材料の販売

事業所

平成22年3月31日現在

● 貴金属事業部 本部/仙台/水戸 東京/入間分室 川崎/甲府 長野/名古屋 大阪/金沢 福山/福岡 鹿児島	● 食品事業部 本部/仙台 塩釜/いわき 東京/小田原 名古屋/大阪 福岡 品質保証室 外食営業課	● 環境事業部 本部/仙台 埼玉/東京 千葉/神奈川 名古屋/大阪 福山/福岡	◎ 生産本部 武蔵工場 武蔵第二工場 入間工場 入間第二工場 開発センター	■ 海外拠点 シンガポール(現地法人) タイ(現地法人) フィリピン(現地法人) マレーシア(現地法人) 中国・蘇州(現地法人) 中国・青島(駐在員事務所)
---	--	--	--	--

会社概要

平成22年3月31日現在

商号	松田産業株式会社
本社所在地	東京都新宿区西新宿1-26-2
設立年月日	昭和26年6月18日
資本金	3,559百万円
従業員数(連結)	887名
主な事業内容	貴金属回収製錬、貴金属地金・電子材料他の販売、食品加工原材料の卸売、産業廃棄物の収集・運搬・処理
会計監査人	新日本有限責任監査法人

役員一覧

平成22年6月29日現在

代表取締役社長	松田 芳明	取締役	山崎 隆一
取締役副社長	對馬 浩二	取締役	伊藤 康之
専務取締役	徳永 庸夫	取締役	馬場 信明
常務取締役	細田 顕治	監査役(常勤)	鈴木 幸一
常務取締役	片山 雄司	監査役	谷 哲夫
取締役	田代 芳孝	監査役	石原 猛男
取締役	船本 正則	監査役	熊坂 博幸
取締役	佐々木 隆茂		

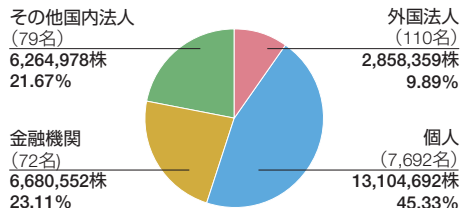
株式の状況

平成22年3月31日現在

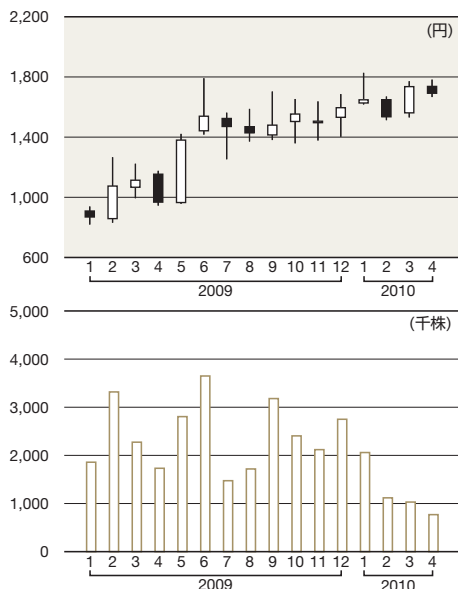
株式の総数	40,000,000株
発行済株式総数	28,908,581株
株主数	7,953名

株式の分布状況

平成22年3月31日現在



株価・出来高推移



株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://ir.matsuda-sangyo.co.jp/ja/Top.html (ただし、電子公告によることが出来ない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に登録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

【株式に関するお手続きについて】

	お手続き、ご照会等の内容	お問合せ先	
特別口座に登録された株式	<ul style="list-style-type: none"> ▶特別口座から一般口座への振替請求 ▶単元未満株式の買取(買増)請求 ▶住所・氏名等のご変更 ▶特別口座の残高照会 ▶配当金の受領方法の指定(*) 	特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
	<ul style="list-style-type: none"> ▶郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ▶支払期間経過後の配当金に関するご照会 ▶株式事務に関する一般的なお問合せ 	株主名簿管理人	[手続き書類のご請求方法] ▶音声自動応答電話によるご請求 0120-244-479 (通話料無料) ▶インターネットによるダウンロード http://www.tr.mufg.jp/daikou/
証券会社等の口座に登録された株式	<ul style="list-style-type: none"> ▶郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ▶支払期間経過後の配当金に関するご照会 ▶株式事務に関する一般的なお問合せ 	株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
	▶上記以外のお手続き、ご照会等口座を開設されている証券会社等にお問合せください。	口座を開設されている証券会社等	にお問合せください。

(*) 特別口座に登録された株式をご所有の株主様は、配当金の受領方法として株式数比例配分方式は選べない場合があります。

株主優待



- 対象株主
毎年3月31日現在の株主名簿および実質株主名簿に記載または記録された、1単元(100株)以上保有の株主様を対象といたします。
- 優待の内容
一律2,000円相当の当社オリジナル「QUOカード」を贈呈いたします。
- 贈呈の時期
毎年1回、当社定時株主総会終了後の6月下旬発送を予定しております。

 **松田産業株式会社**

証券コード: 7456

東京都新宿区西新宿1-26-2新宿野村ビル
TEL 03-5381-0001 (代表)

